

2026年9月期

会社説明資料

株式会社アンビスホールディングス

2026年11月19日

©Amvis Holdings, Inc.

本日の内容

1 2026年9月期決算概況

2 医心館事業の再編成と今後の成長戦略

3 2027年9月期の見通し

4 参考資料

5 会社概要

©Amvis Holdings, Inc.

1．2026年９月期決算概況

決算概況

26年9月期業績

（26年9月期実績）売上高

501億円

（ 26年9月期実績）EBITDA(1)

74億円
(EBITDAマージン：14.9%)

（期初予想）売上高

517億円
(期初予想対比達成率：96.9%)

（期初予想）EBITDA

71億円
(期初予想対比達成率：105.2%)

注１：EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額＋株式報酬費用（後頁同様）

注：通期業績の達成度を示すため、期初に公表した通期業績予想（2026年11月9日の修正前）と比較しております。

©Amvis Holdings, Inc.

決算ハイライト

連結



- 売上：501億円（前年比 +1.9%）、EBITDA：74億円（前年比 −16.7%）
  - ✓ 施設稼働率が低下しているものの、施設の開設と立ち上がりにより増収
  - ✓ シフトチェンジによる人件費上昇と診療報酬改定による影響で、EBITDAは減少
- 営業利益、経常利益で期初予想を達成
- 医心館西日本エリア47施設の譲渡を決定。譲渡益は2027年9月期に計上予定

医心館事業



- 診療報酬改定のマイナス影響があったもののセグメント利益は期初予想を達成
- 既存施設の稼働率は73.8%
  - ✓ 7月にホテルコスト（家賃）を改定
  - ✓ 包括報酬制度に合わせた人員配置の最適化を進める過程で、一部施設において人員不足による入居制限が発生
- 26年9月期は9施設を開設し、26年9月期末時点で138施設（定員7,178名）

総合医療支援事業



- 売上は前年比2.2倍、引当前利益は前年比2.5倍となり、売上利益ともに期初予想を大きく上回って達成
- 9月に今年度4つ目の医療機関への支援を開始
  - ✓ 支援先の医療機関は好調を持続
  - ✓ 支援案件のパイプラインは引き続き充実
- 医師等の採用が進み、支援チームが拡大

稼働率：中央値

©Amvis Holdings, Inc.

連結業績

- 対前年度比では売上高1.9%増に対して、同EBITDAマージンは3.3pt減
- 医心館の一部施設において減損損失21億円を計上したものの、営業利益、経常利益は期初予想を達成

26/9期実績及び業績予想との比較

(百万円)	25/9期 実績	26/9期 期初予想	26/9期 実績	対前年増減	対予想進捗
売上高	49,174	51,700	50,121	+1.9%	96.9%
EBITDA	8,966	7,100	7,471	(16.7%)	105.2%
EBITDAマージン（%）	*18.2%*	*13.7%*	*14.9%*	*(3.3pt)*	-
営業利益	6,162	3,800	4,037	(34.5%)	106.3%
営業利益率（%）	*12.5%*	*7.4%*	*8.1%*	*(4.5pt)*	-
当期純利益	3,660	2,100	1,277	(65.1%)	60.8%
当期純利益率（%）	*7.4%*	*4.1%*	*2.5%*	*(4.9pt)*	-

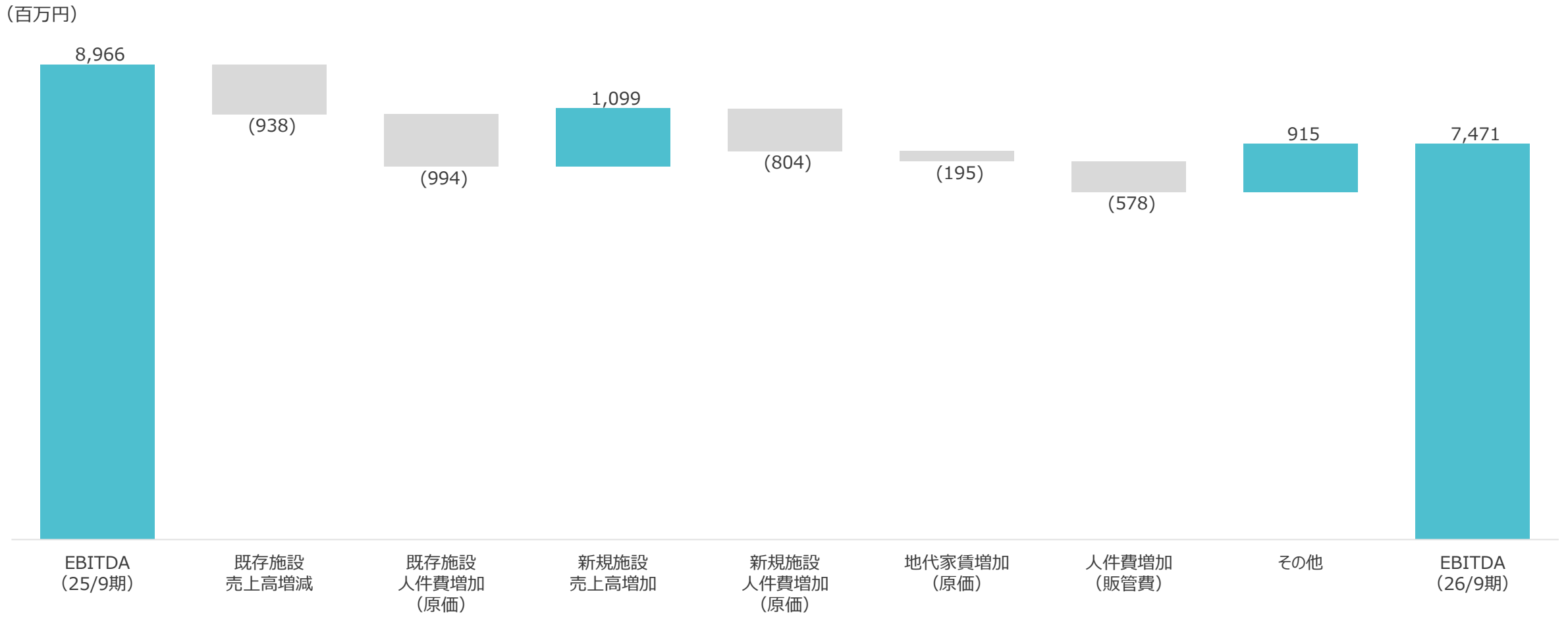
注：通期業績の達成度を示すため、期初に公表した通期業績予想（2026年11月9日の修正前）と比較しております。

©Amvis Holdings, Inc.

施設稼働率の低下とシフトチェンジの影響でEBITDAが減少

- 既存施設の稼働率は73.8%、新規施設の稼働率は41.0%
- 施設稼働率の低下とシフトチェンジの影響による人件費増加に加え、診療報酬改定の影響により前年比でEBITDAは減少

EBITDA増減要因（ 25年9月期– 26年9月期）



新規施設：26/9期に開設した施設（後頁同様） / 稼働率：中央値

©Amvis Holdings, Inc.

医心館セグメント業績

- 対前年度比では売上高0.6%増に対して、同EBITDAマージンは4.3pt減
- 診療報酬改定のマイナス影響があったもののセグメント利益は期初予想を達成

26/9期実績及び業績予想との比較

(百万円)	25/9期 実績	26/9期 期初予想	26/9期 実績	対前年増減	対予想進捗
売上高	48,620	50,850	48,927	+0.6%	96.2%
EBITDA	8,728	6,500	6,660	(23.7%)	102.5%
EBITDAマージン（%）	*18.0%*	*12.8%*	*13.6%*	*(4.3pt)*	-
セグメント利益	5,925	3,200	3,264	(44.9%)	102.0%
セグメント利益率（%）	*12.2%*	*6.3%*	*6.7%*	*(5.5pt)*	-

注：通期業績の達成度を示すため、期初に公表した通期業績予想（2026年11月9日の修正前）と比較しております。

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援セグメント業績

- 対前年度比では売上高は2.2倍、同引当前営業利益は2.5倍
- 期初の業績予想を大きく上回って達成

26/9期実績及び業績予想との比較

(百万円)	25/9期 実績	26/9期 期初予想	26/9期 実績	対前年増減	対予想進捗
売上高	553	850	1,195	2.2倍	140.7%
引当前営業利益*1	325	600	802	2.5倍	*133.8%*
マージン（%）	*58.8%*	*70.6%*	*67.1%*	*+8.3pt*	-
セグメント利益	237	600	773	3.3倍	*128.8%*
セグメント利益率（%）	*42.9%*	*70.6%*	*64.6%*	*+21.8pt*	-

※1：総合医療支援事業は医療機関への貸付等が発生し保守的な引当を行う場合もあるため、経営指標としては引当前営業利益を重視する戦略（引当前営業利益：営業利益＋貸倒引当金繰入額）

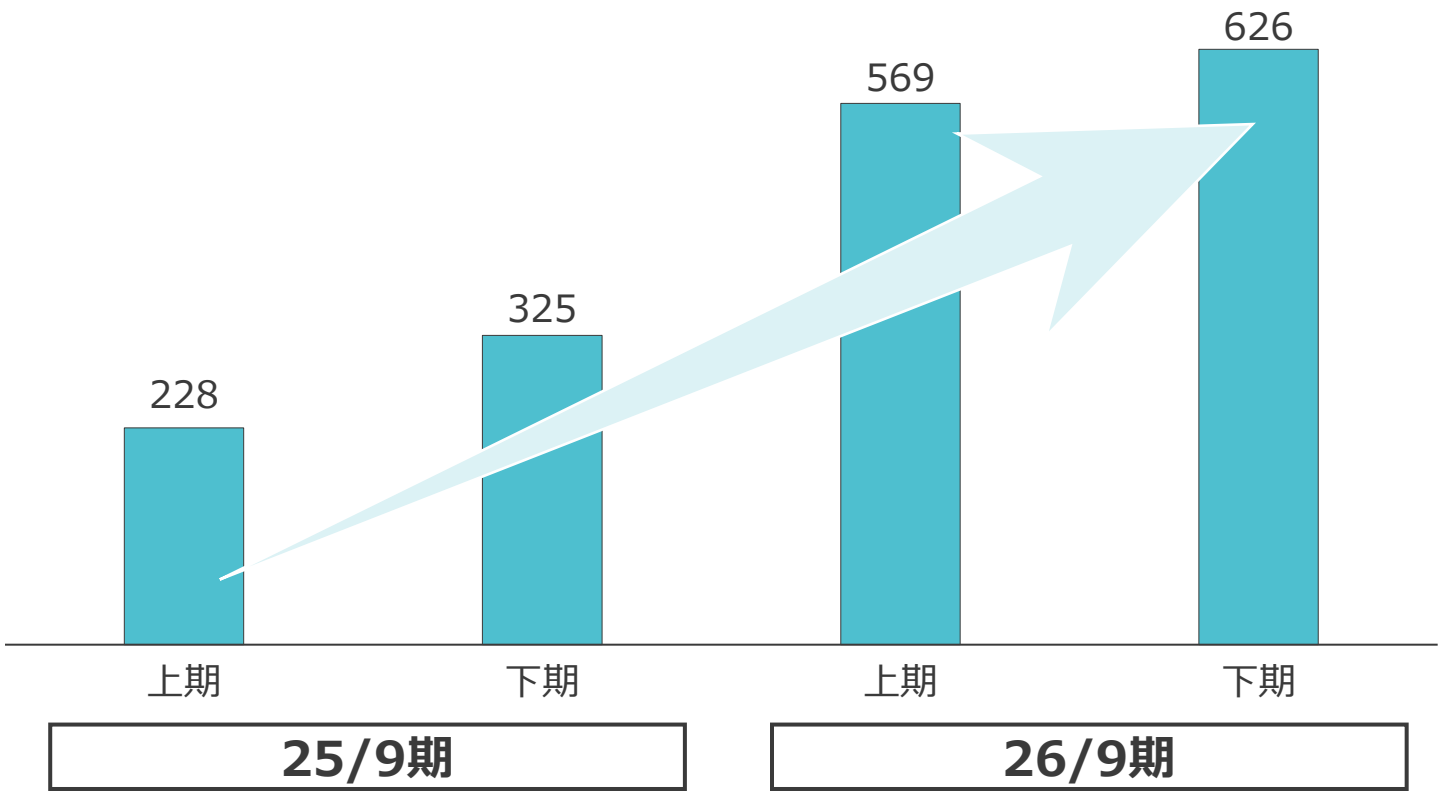
注：通期業績の達成度を示すため、期初に公表した通期業績予想（2026年11月9日の修正前）と比較しております。

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援セグメントの状況

- 支援先の医療機関が増加し、コンサルティングフィーを中心に売上が拡大

売上高推移(百万円)



今年度の進捗

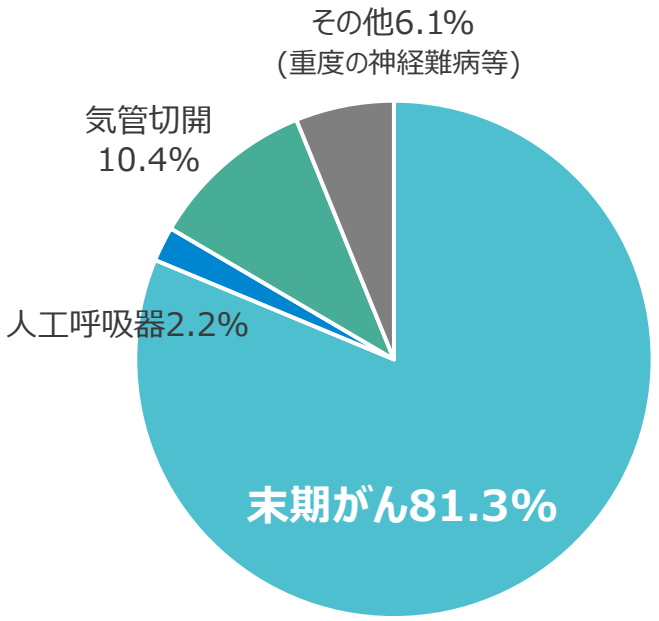
- ✓ 26/9期は4つの医療機関を支援先に追加
- ✓ 案件パイプラインは引き続き充実しており、今後も支援先は増える見込み
- ✓ 医師等の採用が進み、支援チームが拡大
- ✓ 病院周辺商流の事業収益も増加傾向

©Amvis Holdings, Inc.

末期がん患者を中心に受け入れる医心館の運営状況

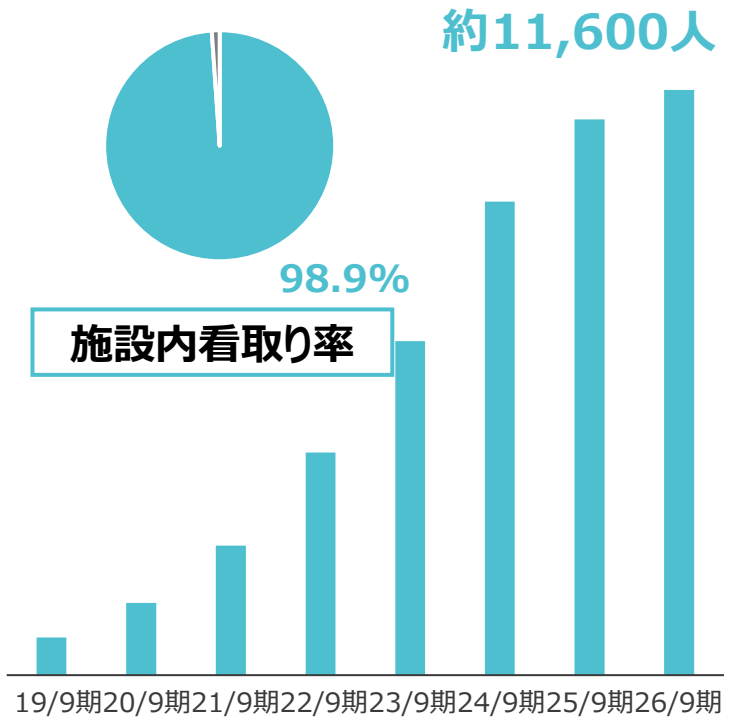
- 医心館は末期がん患者を中心とした終末期の患者に対する看取りのセーフティネットとして機能
- 末期がん患者の入居日数は緩和ケア病棟よりも短期間であり、需要の高い終末期のニーズに応えているため、その社会的な意義は拡大

入居者属性



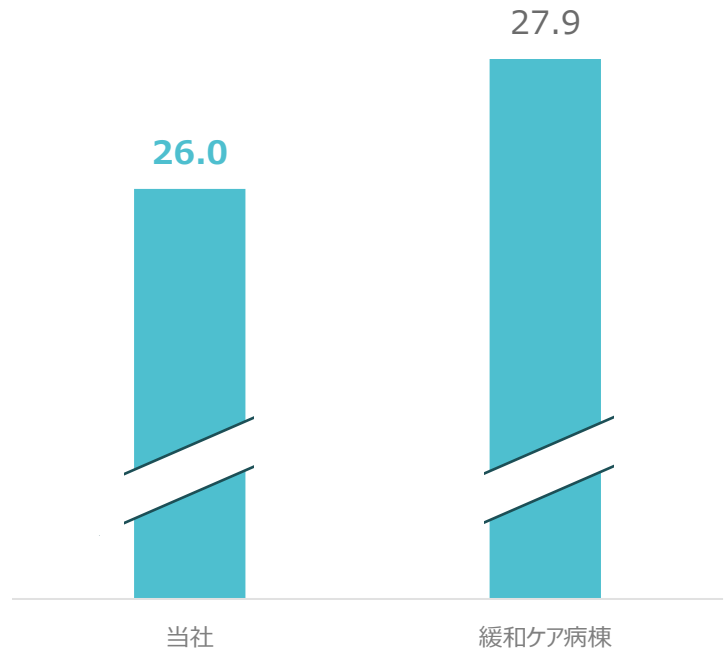
2023年4月から2024年5月までの首都圏の医心館の既存・新規入居者7,248名を疾患別に分類したもの。末期がん、人工呼吸器、気管切開で複数の疾患を持つ入居者は、より前者の疾患にカウント。
末期がんの入居者は短期間でご逝去される傾向にあるため、新規入居者に限定する場合、末期がんの入居者比率は8-9割に上昇。

看取り者数の推移



施設内看取り率は、施設の入居者の看取り総数から施設外逝去を除いたものを看取り総数と施設外逝去の合計で除したもの。上記の看取り率は直近1年間の四半期ごとの調査の平均値。

末期がん患者の入居日数

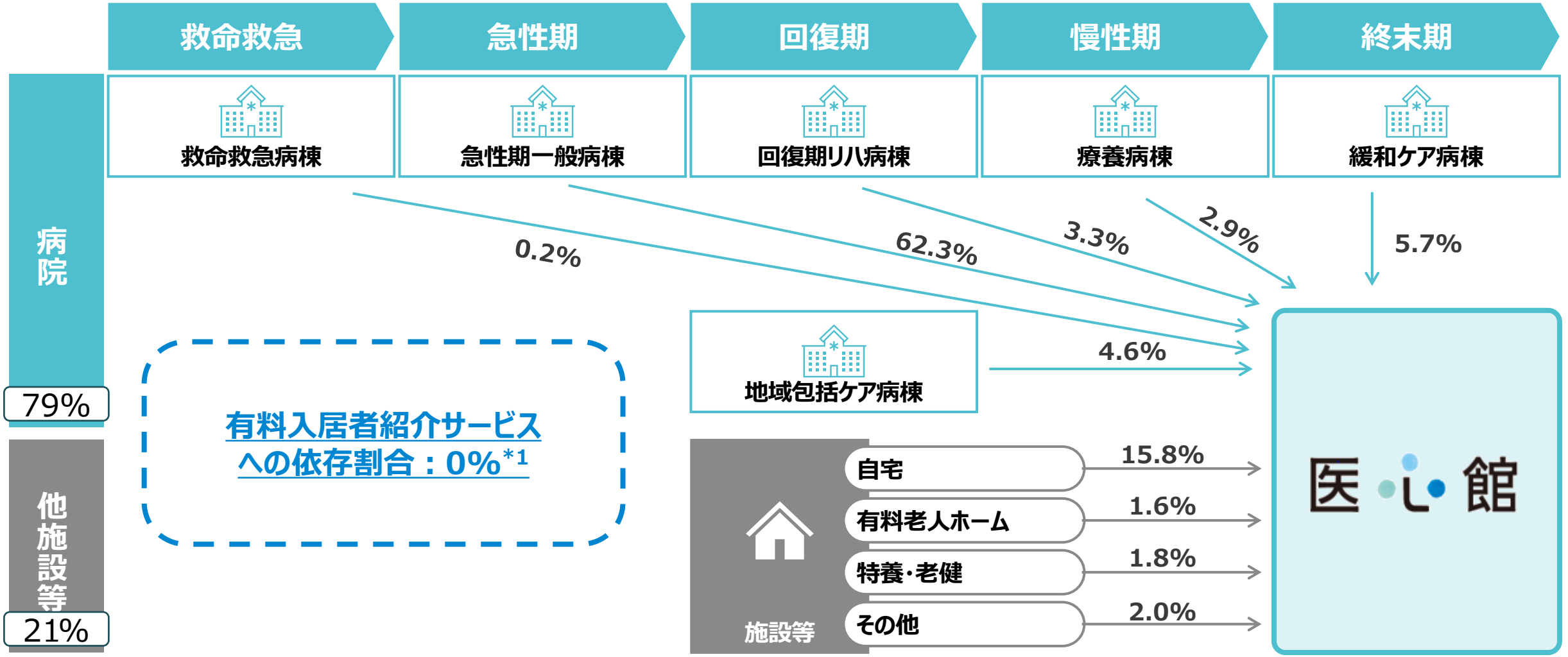


出所：ホスピス・緩和ケア白書2023
※当社の入居日数は都内の2023年10月以降に入居されたご逝去者764名の中央値
※緩和ケア病棟はホスピス・緩和ケア白書における平均入院日数

©Amvis Holdings, Inc.

急性期・緩和ケア病棟の退院調整先として機能

- 医心館はがん末期と医療ケア重症度の高い患者を、多様な医療機関より、毎月1,000名規模で受け入れ
- 特に急性期一般からの受け入れが多く（62.3%）、緩和ケア病棟の退院調整先としても機能している（5.7%）



※24年12月の入居者(1,198名)を対象とした調査。*1:うち有料の入居者照会サービスを利用された方はおらず、全て医療機関等から直接のご紹介

©Amvis Holdings, Inc.

高い顧客満足度

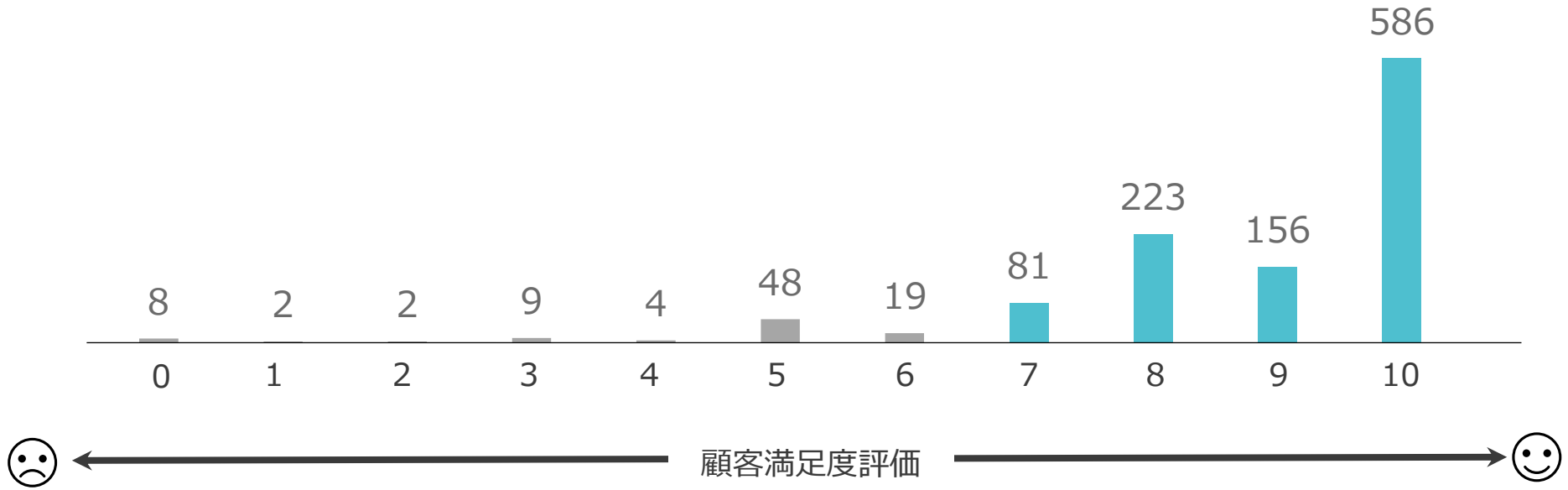
- 医心館は顧客満足度評価において8.80/10点満点と高い評価を獲得

高い顧客満足度

「医心館を親戚や友人、信頼できる方に推奨しますか」(10点満点)

NPS：57.1

平均値：8.80



Source:2024年の合算。退所後にご家族へのアンケートを実施（サンプル数1,138）

2. 医心館事業の再編成と今後の成長戦略

譲渡案件の概要

- 西日本を中心とした医心館47施設を譲渡価格174億円で株式会社日本産業推進機構（NSSK）に売却
- 臨時株主総会での決議を経て11月16日に譲渡完了

本案件の概要

譲渡対象	西日本を中心とした医心館47施設
譲渡価額	174億円
譲渡実施	11月16日
業績影響	2027/9期に譲渡益が約79億円が発生する見込み

スケジュール

9 / 28	株式譲渡契約締結	済
10 / 13	臨時株主総会基準日	済
11 / 13	臨時株主総会	済
11 / 16	譲渡実施	済

※ 取引条件等の詳細については、2026年9月28日に公表の「子会社の設立及び当該子会社における吸収分割、当該子会社の株式譲渡に関するお知らせ」をご参照ください

©Amvis Holdings, Inc.

医心館事業の選択と集中

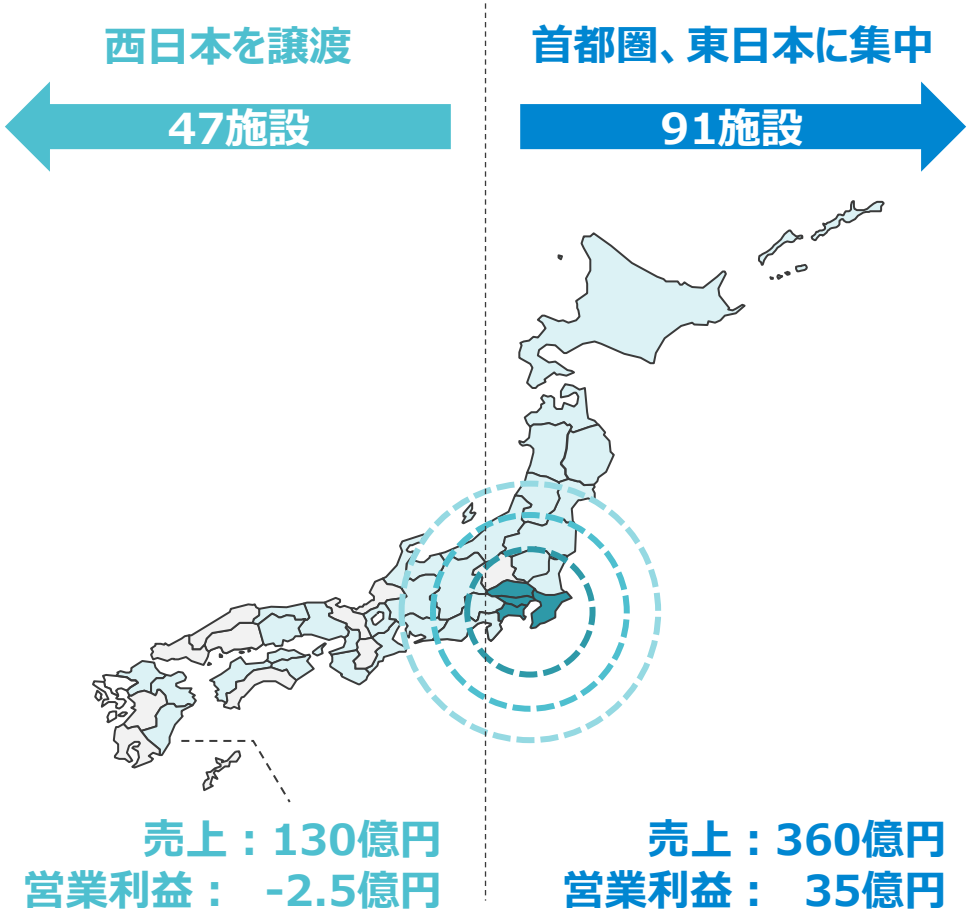
- 医療重症度の高い方、終末度の高い方を受け入れる医心館の運営に一層注力
- 首都圏・東日本エリアへ経営資源を集中し、収益構造を筋肉質化

本案件のポイント

強みへの注力
✓ 医療重症度の高い方、終末度の高い方の受け入れに注力し、医心館モデルの強みを発揮

選択と集中
✓ 地域ごとの入居者ニーズや受入れ状況を踏まえて首都圏・東日本へ経営資源を重点配分

収益改善
✓ 経営資源の重点配分と運営効率の向上により、医心館事業の収益性を改善



(2026/9期実績)

©Amvis Holdings, Inc.

自社建築モデルが生み出した価値

- 低金利環境を活用した自社建築により、スピーディーな施設展開と利用者負担の抑制を両立
- 自社保有により蓄積した資産価値は、今回の譲渡を通じて顕在化

① 成長スピード

- 自ら土地・建物を確保することで、出店を加速
- 開設時期を自社でコントロールし、機動的な出店が可能

② 運営コスト

- 自社で建物を保有することで、外部への賃料負担を抑制
- 無理な値下げによらず、利用者負担を抑えた料金設定を実現

③ 資産価値

- 施設を自社で保有し、資産価値を蓄積
- 今回の譲渡で、蓄積した価値を成長投資余力へ転換

自社建築により「成長」と「資産形成」を両立。
蓄積した価値を、今回の譲渡を通じて次の成長投資へ。

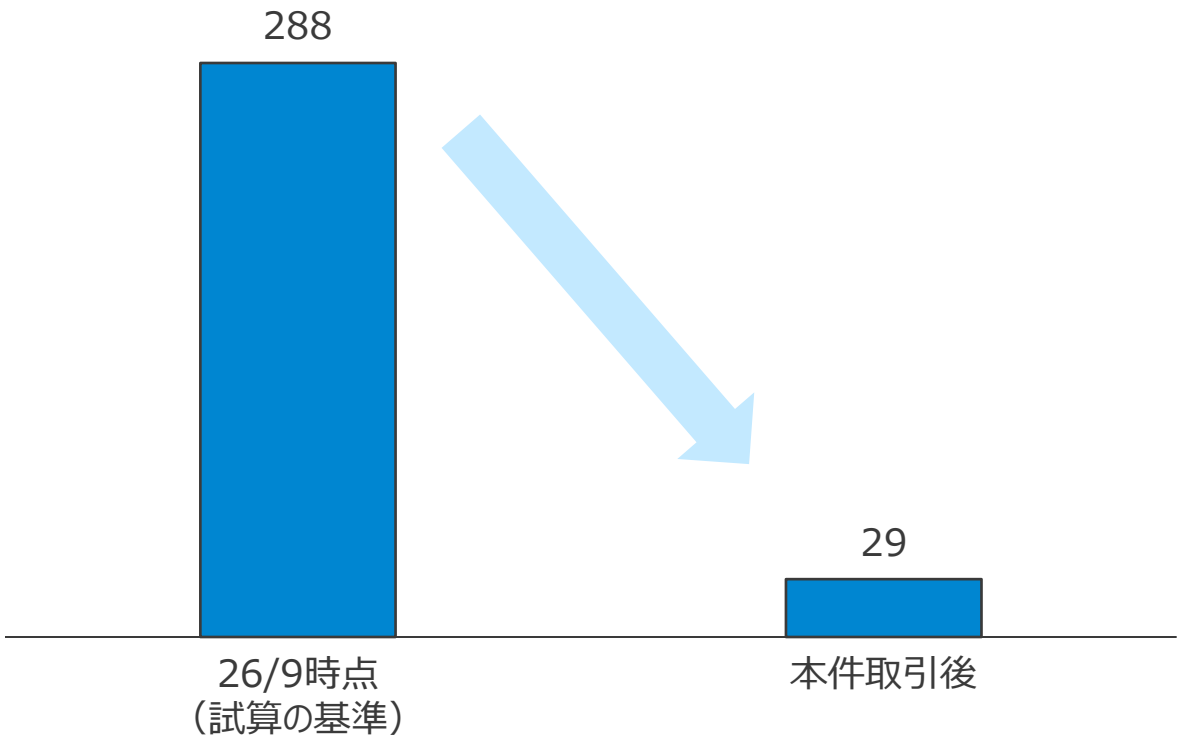
©Amvis Holdings, Inc.

成長投資余力の拡充

- 譲渡に伴う有利子負債の減少と譲渡対価の受領等により、ネットデットを圧縮
- 財務基盤を強化し、成長領域への投資余力を拡充

ネットデットの改善（試算）

（単位：億円）



改善の内訳

■ **借入金の減少**
- ➢ 譲渡先への承継に伴う借入金の減少
- ➢ 88億円

■ **リース負債の減少**
- ➢ 譲渡対象施設に係るリース負債の減少
- ➢ 1億円

■ **現金の増加**
- ➢ 譲渡対価の受領等による現金の増加
- ➢ 170億円

※ ネットデット = 有利子負債 + リース負債 − 現預金

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業へ重点をシフト

- 医心館事業は安定的に運営し、成長領域である総合医療支援事業へ経営資源を重点配分

		これまで	これから
医心館事業	展開エリア	日本全国	東日本中心、支援病院周辺
	開設戦略	積極、大量	厳選、少量
	開設手法	自社建設中心	M&A中心
総合医療支援事業	支援規模	年間数施設の案件獲得	年間10施設以上の案件獲得を目指す
	支援チーム	数名の医師中心	医師 ＋ コンサル ＋ エンジニア
	支援内容	診療現場の改善が中心	消耗品卸、DX/AIと徐々に追加



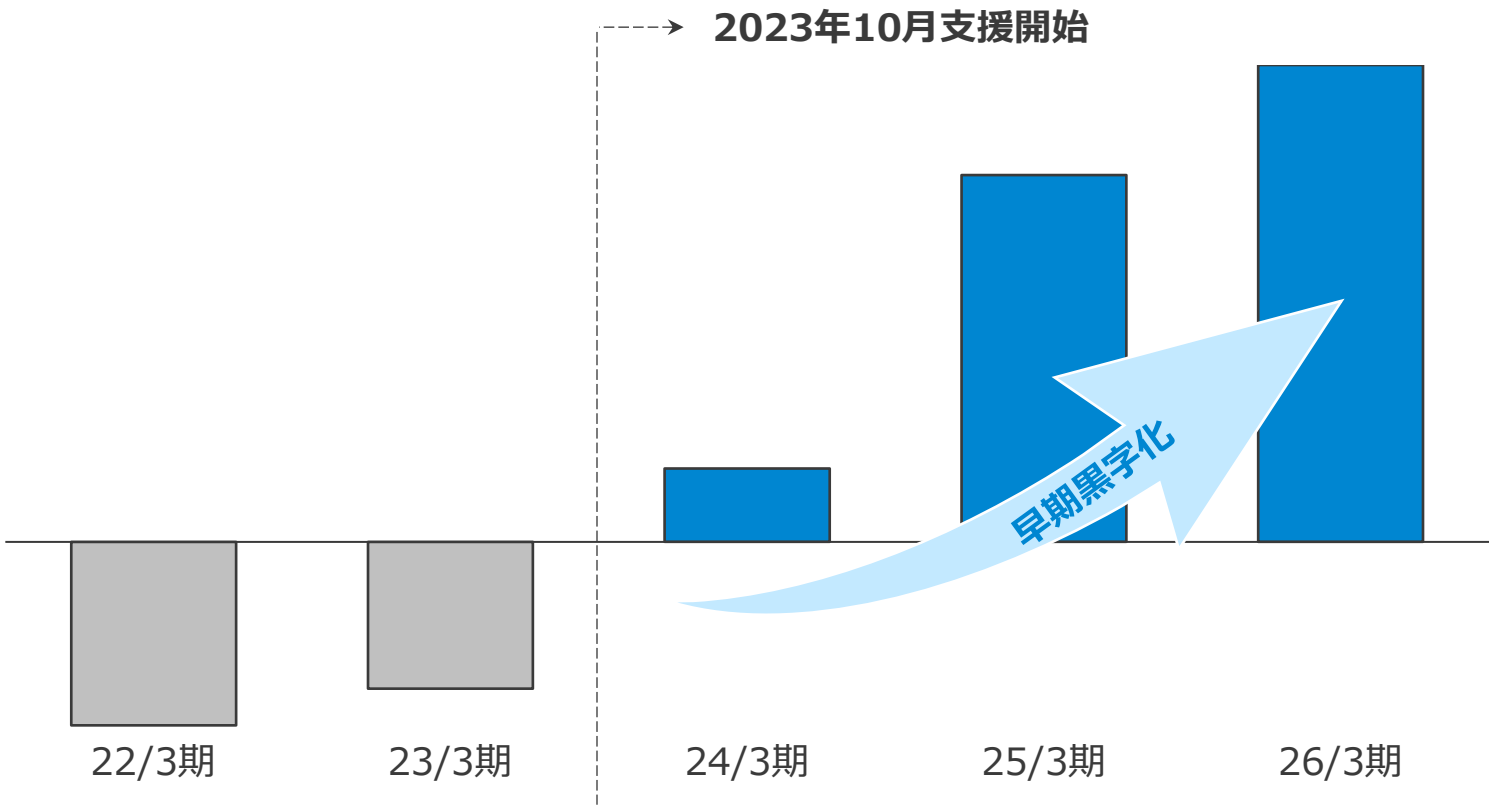


©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業ー病院再建事例

- 医師と看護師から構成されるチームが現場に介入し、再建を主導
- 支援開始直後に重点的に人員を投入し、短期間に収益性を改善

医業利益の推移



改善した収益力を医療体制の拡充のために再投資

支援医療機関の概要

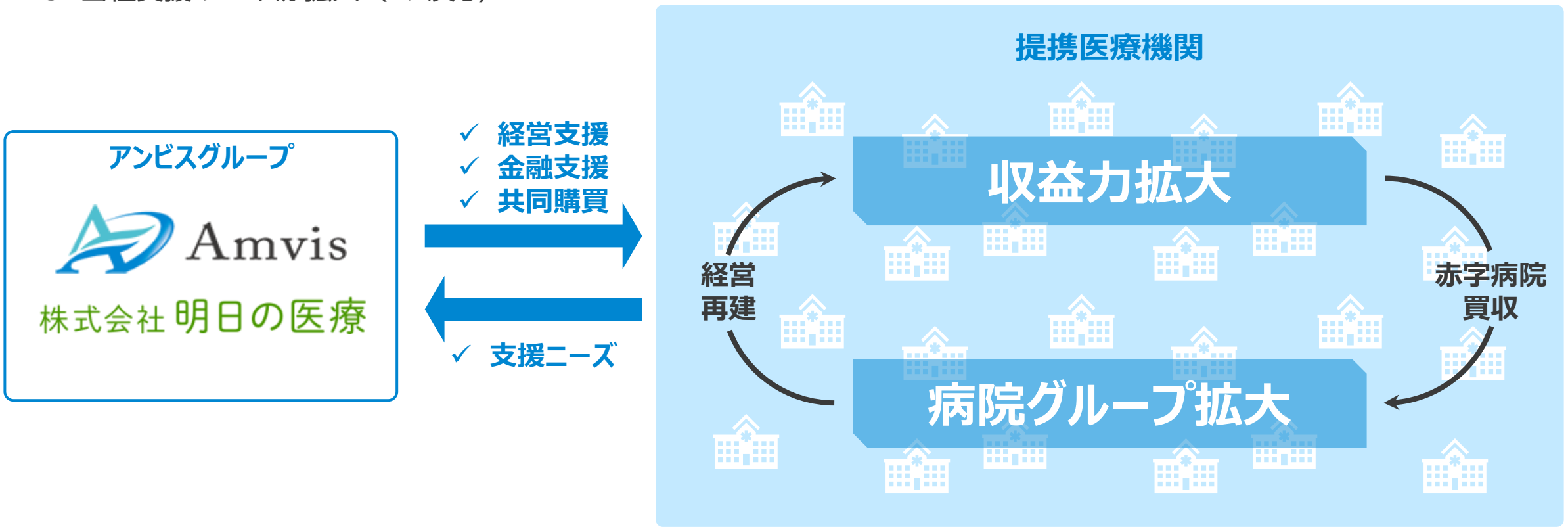
病床数：約100床
病床タイプ：地域包括ケア病床
支援開始：2023年10月

- コスト構造の抜本的な見直しなどにより収益性が大幅に改善
- 支援開始前の23年３月期は赤字だったが、支援を開始した24年３月期には黒字化
- 医心館との連携により病床稼働を最適化し、利益拡大

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業のエコシステム

- 1. 当社支援により提携病院の収益力が拡大
- 2. 提携病院は収益力を背景に赤字病院を買収して拡大
- 3. 当社支援のニーズが拡大（1に戻る）



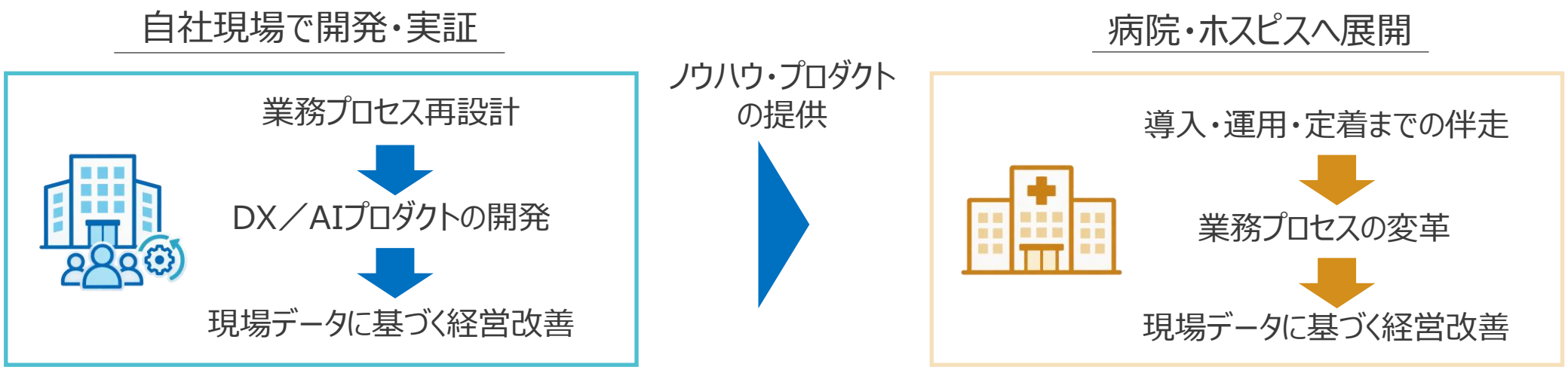
当社支援の進展に伴い、新たな支援ニーズが生まれる構造

©Amvis Holdings, Inc.

DX/AIの新規事業

- 医療・介護・福祉の領域は、経営・運営の効率が低く、DX/AI化による業務改善が大きく遅れている分野
- アンビスグループではAIを活用して社内システム開発を進めており、段階的にローンチ中
- その経験を活かし、DX/AIシステムの開発・販売から業務プロセスの変革、経営・運営改善まで一体で手掛ける子会社「AIZIA（アイジア）」を設立
- 大きな投資を避け、スモールスタート。まずは支援先病院への販売を目指す

想定する事業内容

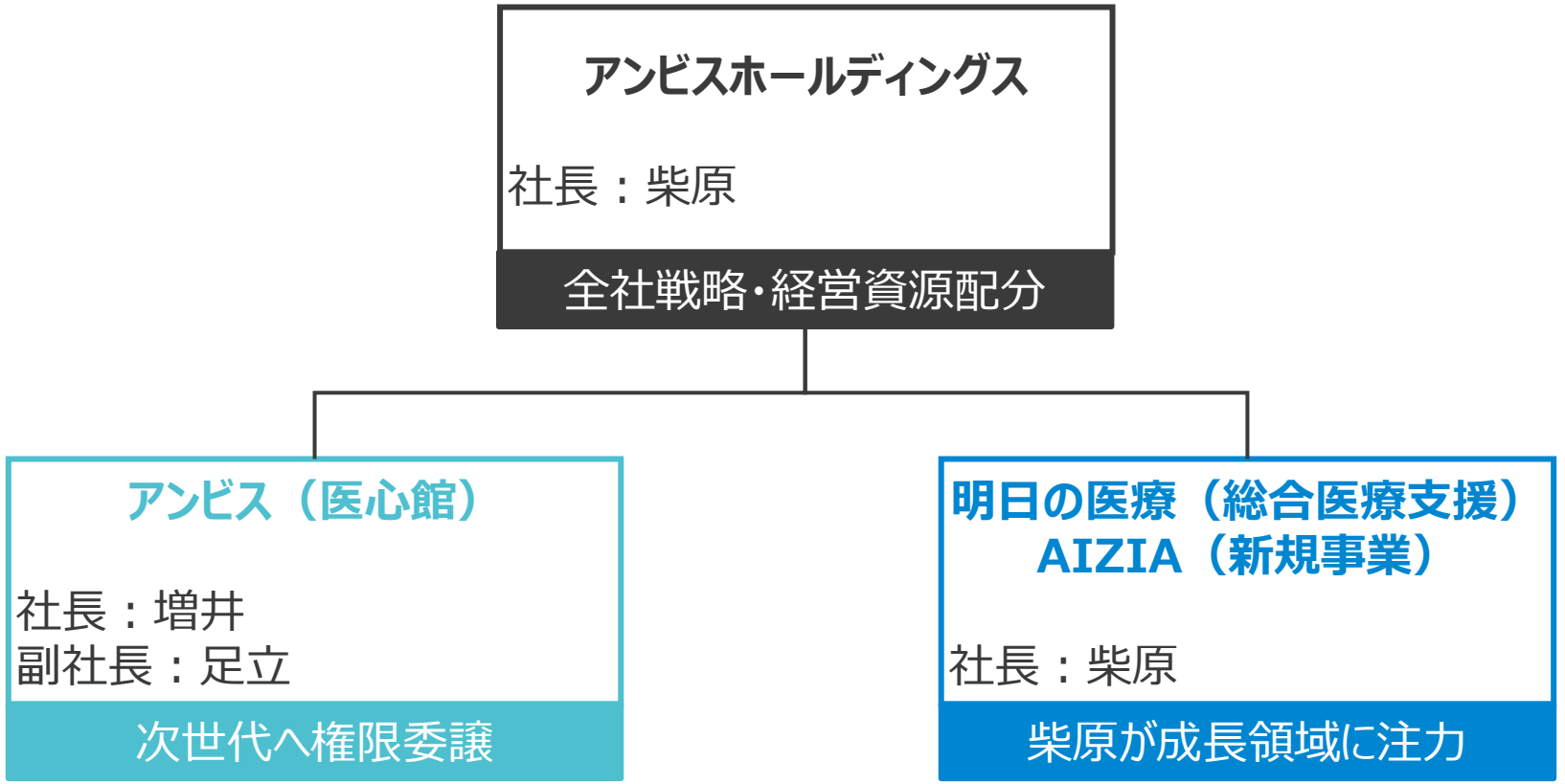


▶ 自社の業務改善で実証したDX/AIを、医療業界全体の生産性向上へ展開する

©Amvis Holdings, Inc.

次の成長を支える経営体制

- 医心館事業を次世代に委ね、柴原は全社戦略と成長領域の拡大に注力



▶ 次世代への権限委譲により、意思決定の迅速化と事業展開の加速を図る

©Amvis Holdings, Inc.

将来的な事業成長のイメージ

- 当社はこれまで病院でも自宅でもない末期がんの方のための第三の療養の場としての「医心館事業」を確立してきた
- 今後は疲弊する医療機関の経営支援を含め、日本社会が抱える様々な医療課題の解決を担う総合事業体を目指す

Phase1
医心館事業の確立

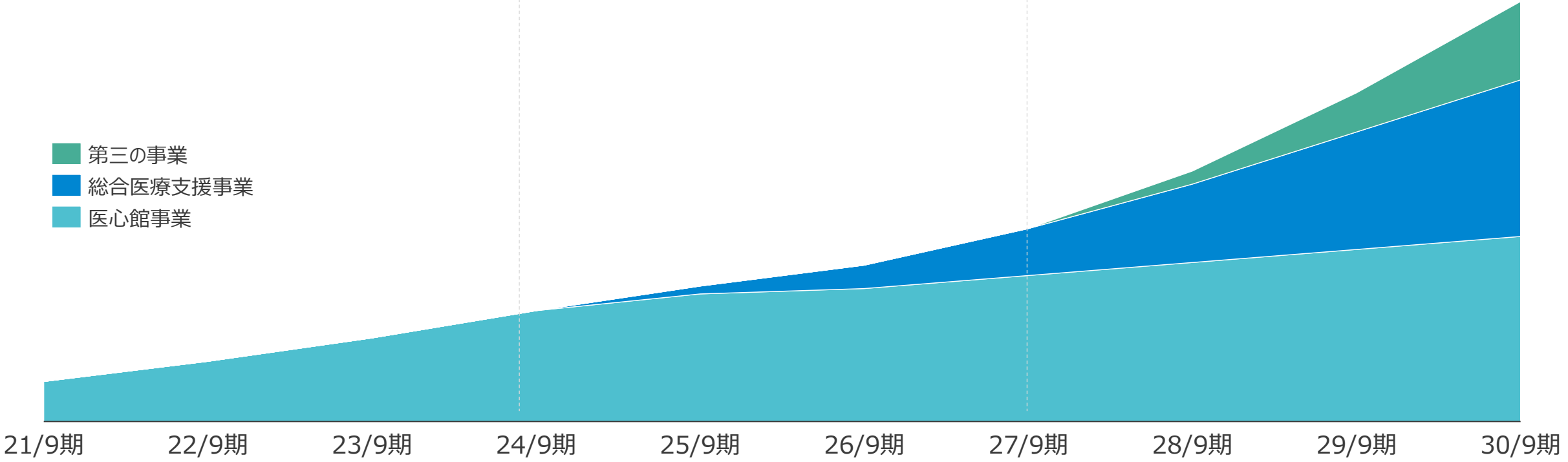
終末期のプラットフォームとしての医心館を確立し、
自宅・病院に替わる第三の療養の場を社会に提供

Phase2
総合医療支援事業の創出と拡大

経営難に陥った医療機関を
様々なアプローチで支援しノウハウを確立

Phase3
新たな医療課題の解決

日本の優れた医療制度を持続させ、
多くの人が質の高い医療を享受できる社会の実現



©Amvis Holdings, Inc.

3. 2027年9月期の見通し

全社 – 2027年9月期の通期見通し

- 医心館事業が減収減益となるため売上と営業利益は前年比で減少
- 医心館西日本エリアの譲渡益の計上により当期純利益は大幅増益
- 成長の軸足を医心館事業から総合医療支援事業にシフト

(百万円)	26/9期 実績	27/9期 予想	対前年増減	対前年増減率
売上高	50,121	35,600	(14,521)	(29.0%)
EBITDA	7,471	3,700	(3,771)	(50.5%)
EBITDAマージン（%）	*14.9%*	*10.4%*	*(4.5pt)*	-
営業利益	4,037	1,100	(2,937)	(72.8%)
営業利益率（%）	*8.1%*	*3.1%*	*(5.0pt)*	-
当期純利益	1,277	5,300	4,022	315.0%
当期純利益率（%）	*2.5%*	*14.9%*	*12.3pt*	-

©Amvis Holdings, Inc.

医心館事業 – 2027年9月期の通期見通し

- 診療報酬改定が通期にわたって影響することに加え、西日本エリアの譲渡により減収減益
- 人員配置の最適化に伴う人員不足により、上半期の稼働率は低調に推移する見通し
- ４月を中心とする入社に伴い、下半期の稼働率は緩やかな回復を見込む

業績見通し

(百万円)	26/9期 実績	27/9期 予想	対前年増減	対前年増減率
売上高	48,927	34,000	(14,927)	(30.5%)
EBITDA	6,660	2,650	(4,010)	(60.2%)
EBITDAマージン（%）	*13.6%*	*7.8%*	*(5.8pt)*	-
営業利益	3,264	50	(3,214)	(98.5%)
営業利益率（%）	*6.7%*	*0.1%*	*(6.5pt)*	-

前提

■ **開設計画**
- ✓ 27年9月期は首都圏/東日本を中心に5施設を開設予定
- ✓ 2027年９月末時点で96施設（定員5,115名）となる予定

■ **稼働状況**
- ✓ 上半期は人員不足等により低調だが、下半期に緩やかに回復する見込み

■ **人件費等**
- ✓ インフレ影響等を考慮して人件費単価は増加する計画

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業 – 2027年9月期の通期見通し

- 経営支援先の医療機関の増加による増収増益を見込む

業績見通し

(百万円)	26/9期 実績	27/9期 予想	対前年増減	対前年増減率
売上高	1,195	1,600	+404	+33.8%
引当前営業利益*1	802	1,100	+297	+37.1%
マージン（%）	*67.1%*	*68.8%*	*+1.6pt*	-
営業利益	773	1,050	+276	+35.8%
営業利益率（%）	*64.6%*	*65.6%*	*+1.0pt*	-

前提

■ **支援先･提携先医療機関の拡大**

- ✓ 医療機関のパイプラインは引き続き充実
- ✓ 支援チームの拡大に伴い成長ペースが加速

■ **３つの支援メニューを展開**

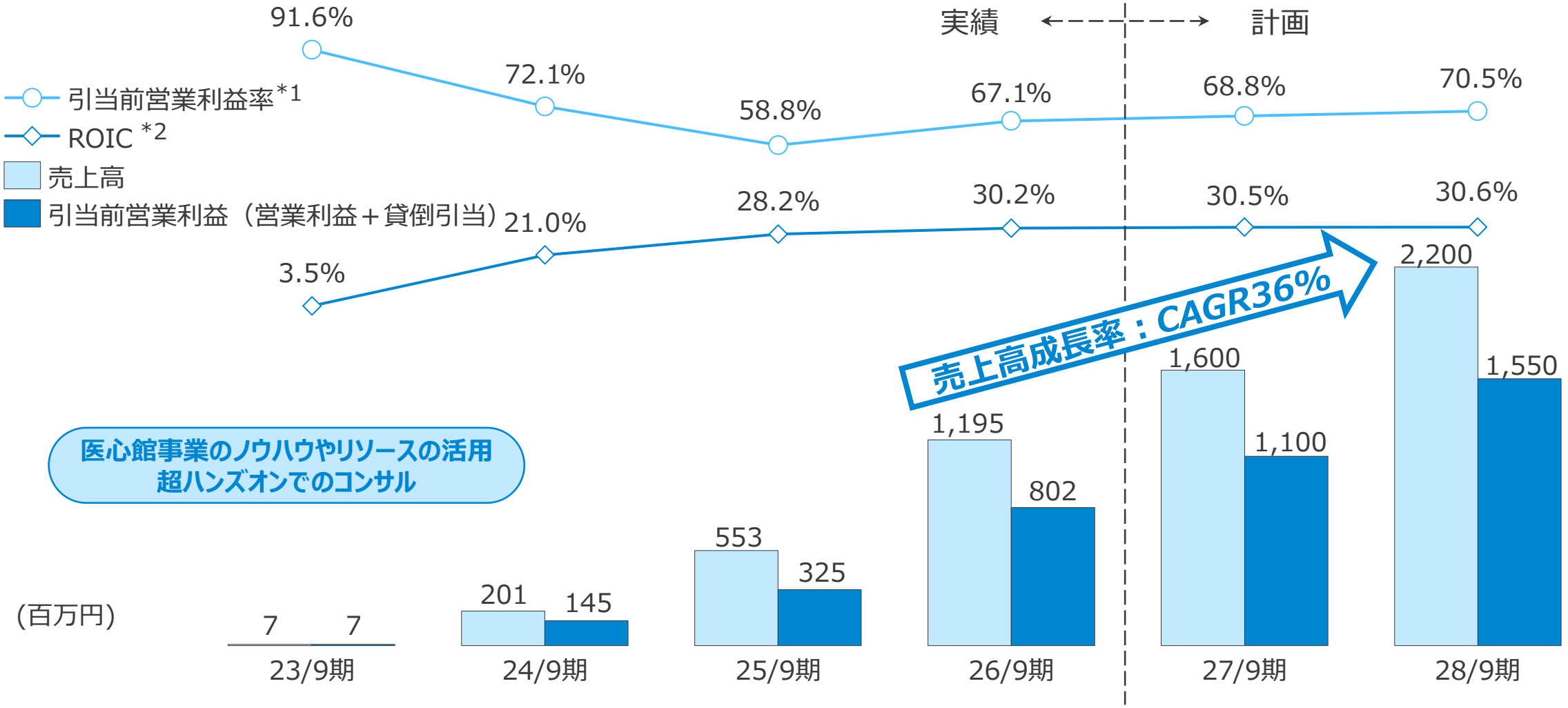
1. 経営コンサル：医師･看護師を派遣することで、迅速に経営改善を行う
2. 金融支援：メザニンや不動産の流動化等による金融支援を行うことで、経営の安定化を図る
3. 商社機能：グループの商社機能を活用し、医療介護用品を安価かつ安定的に供給

※1：総合医療支援事業は医療機関への貸付等が発生し保守的な引当を行う場合もあるため、経営指標としては引当前営業利益を重視する戦略（引当前営業利益：営業利益＋貸倒引当金繰入額）

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業の成長イメージ

- 経営難にある医療機関が増加していることを背景に、売上・利益ともに高い成長率を維持する見通し
- 投下資本効率を重視し、脱保険収益依存を目指す事業セグメントである



※1:引当前営業利益：営業利益＋貸倒引当金繰入額、※2:ROIC＝引当前営業利益 × (1 - 実効税率) ÷ 投下資本、投下資本=総資産 - 現預金

©Amvis Holdings, Inc.

2027年9月期予想 – 主要目標

2027年9月期予想

（27年9月末）施設数 / 定員数

96施設 / 5,115名

26年9月末（実績）：138施設 / 7,178名

25年9月末（実績）：130施設 / 6,706名

24年9月末（実績）：103施設 / 5,248名

23年9月末（実績）： 75施設 / 3,795名

（27年9月期）売上高

356億円
(対前年 △29.0%)

26年9月期（実績）：501億円
（同 +1.9%）

25年9月期（実績）：491億円
（同 +15.8%）

24年9月期（実績）：424億円
（同 +32.8%）

23年9月期（実績）：319億円
（同 +38.6%）

（27年9月期）EBITDA

37億円
（EBITDAマージン 10.4%）

26年9月期（実績）：74億円
（同 14.9%）

25年9月期（実績）：89億円
（同 18.2%）

24年9月期（実績）：124億円
（同 29.4%）

23年9月期（実績）：98億円
（同 30.7%）

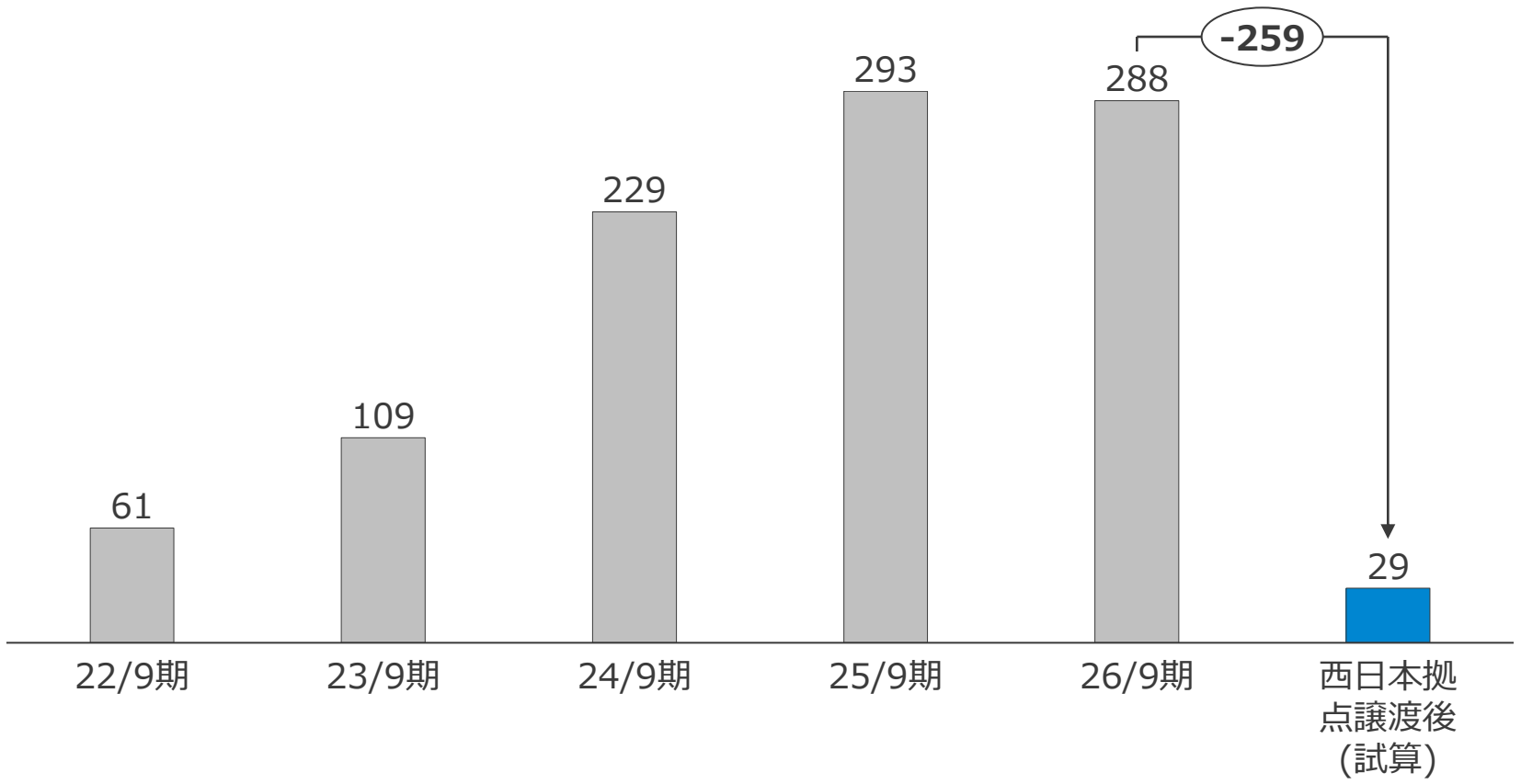
©Amvis Holdings, Inc.

財務基盤の大幅な強化

- 西日本エリアの譲渡対価を活用し、借入金を全額返済予定
- ネットデットを大幅に圧縮し、成長投資余力を拡大

ネットデットの推移

（単位：億円）



※ ネットデット = 有利子負債 + リース負債 − 現預金

新たな成長投資

西日本拠点の譲渡によって獲得した投資余力を次の成長分野に投入

1 総合医療支援事業

2 新規事業
(AI/DX支援等)

©Amvis Holdings, Inc.

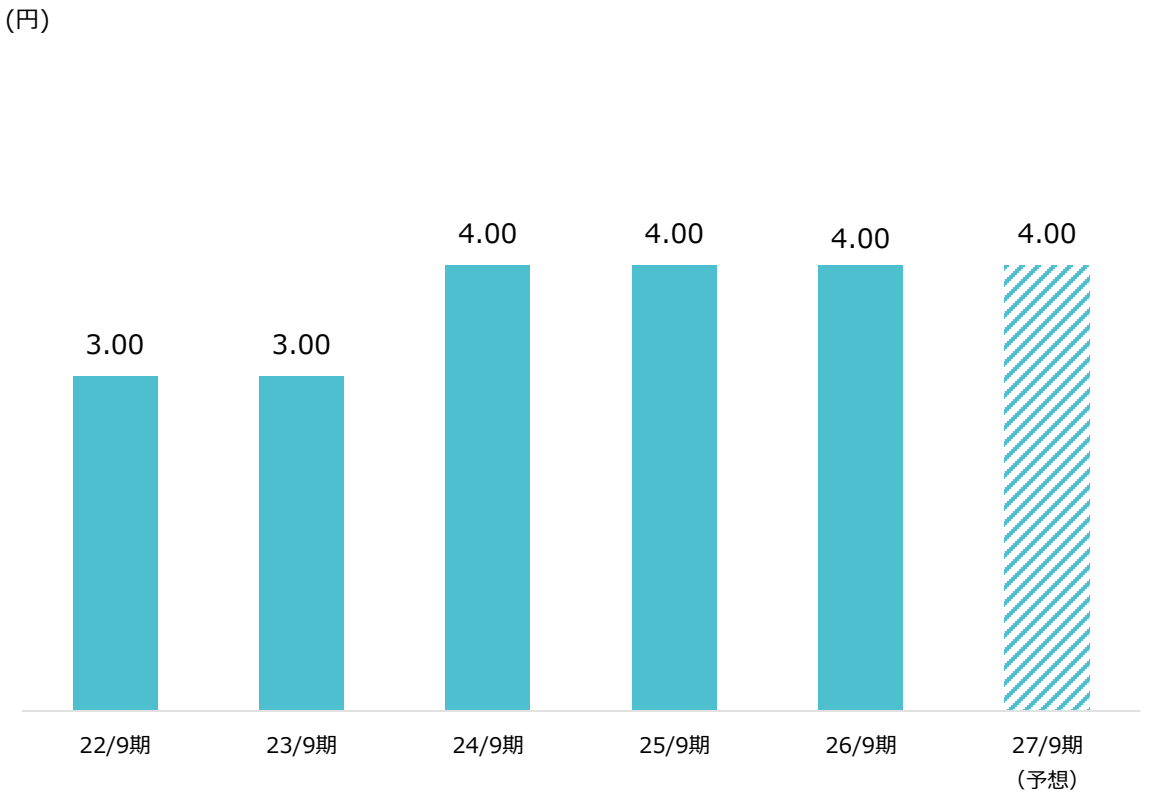
株主還元方針

- 27年9月期の1株当たり配当金は、 前年度と同じ4円を予想
- 中長期的な配当方針は今後の再成長に伴い改めて検討する方針

株主還元基本方針

- 株主に対する利益配分を重要な経営課題として捉え、医心館事業及びその周辺領域への事業展開と経営基盤の強化を図るための内部留保資金を確保しつつ、株主還元を実施し、企業価値の向上を企図
  - ➢ 株主配当：安定的な株主配当を基本とし、市場環境、規制動向、財務健全性等、総合的に勘案し、年1回の期末配当を実施

1株当たり配当金*1 の推移



※1：22年1月1日付、22年10月1日付の株式分割考慮後の1株当たり配当金を記載

©Amvis Holdings, Inc.

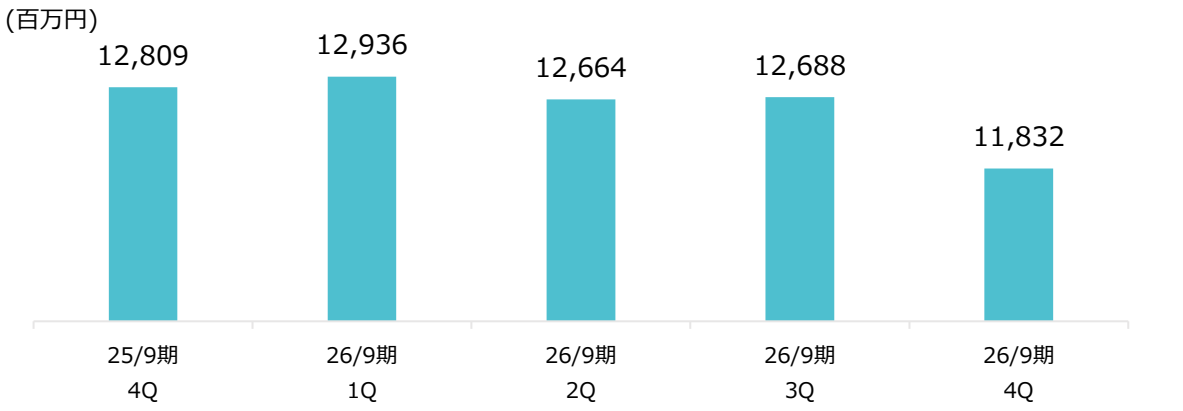
Amvis

4. 参考資料

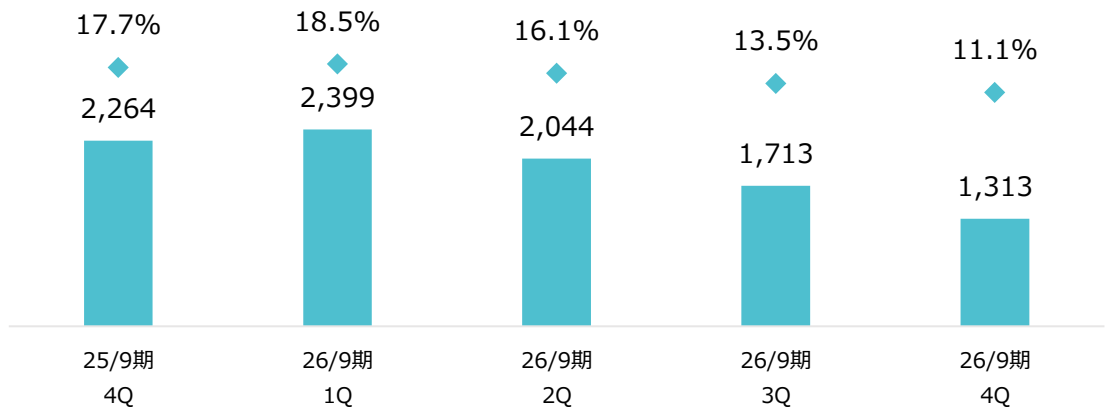
四半期業績推移 – 主要財務指標（全社）

直近1年間四半期業績推移

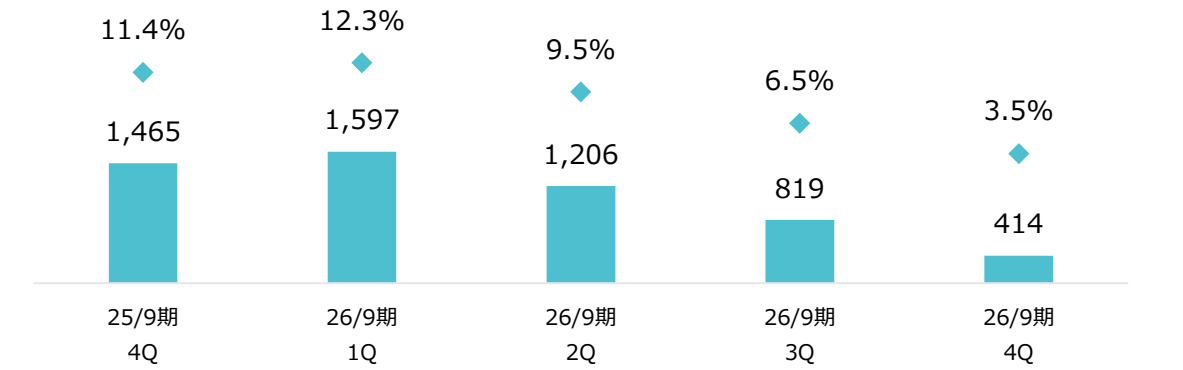
売上高



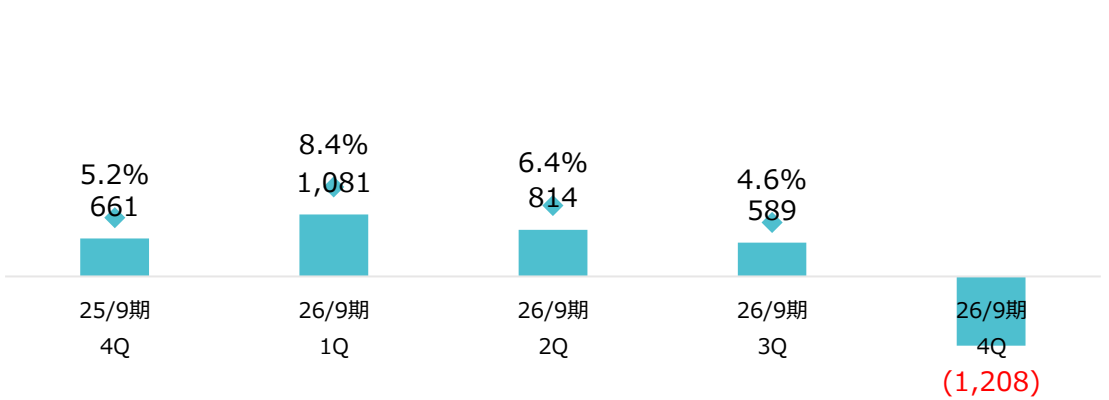
EBITDA



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



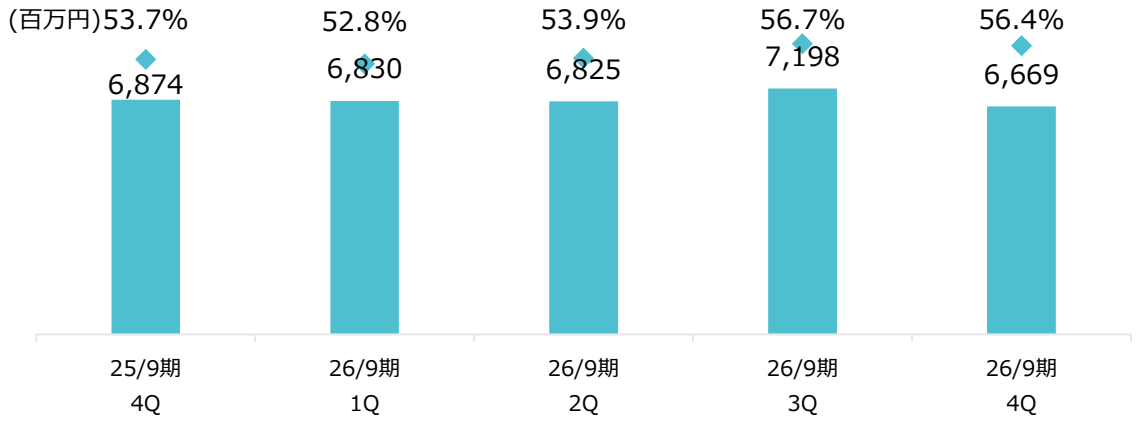
◆ 売上高比

©Amvis Holdings, Inc.

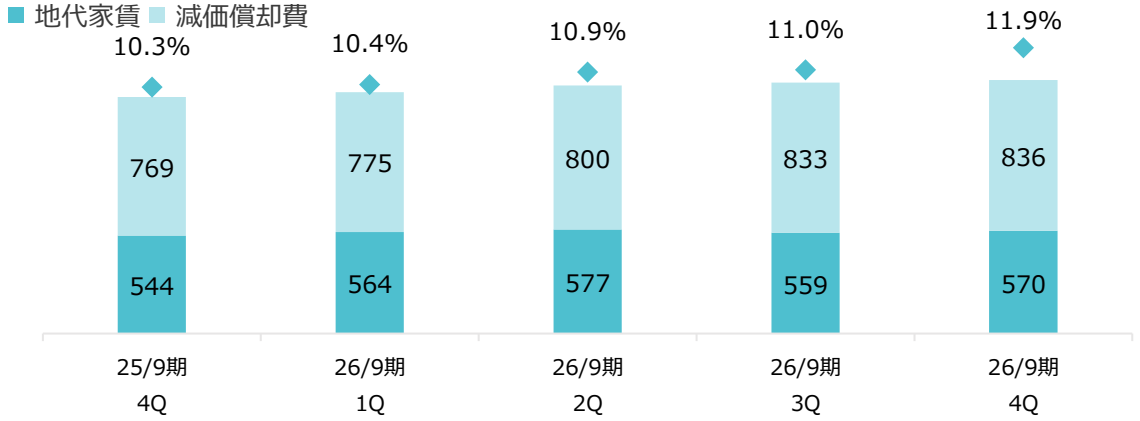
四半期業績推移 – 主要売上原価 / 販管費（全社）

直近1年間四半期業績推移

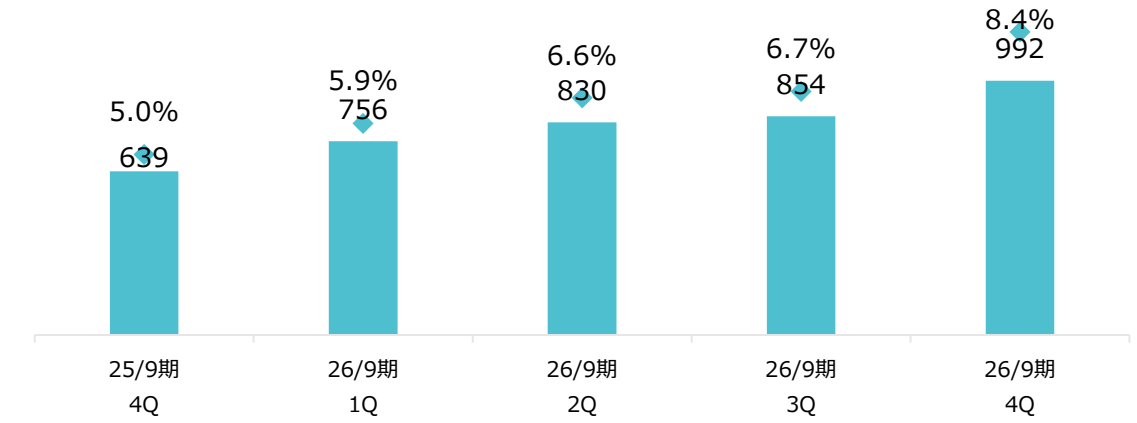
人件費（売上原価）



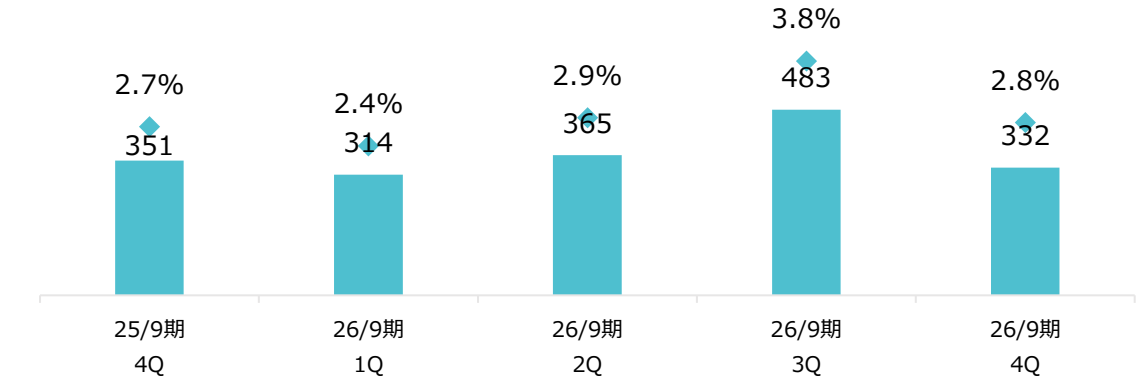
地代家賃及び減価償却費（売上原価）



人件費（販管費）



採用費（販管費）



◆ 売上高比

©Amvis Holdings, Inc.

財政状態概要

財政状態

（百万円 / %）	24/9末	25/9末	26/9末	対25/9末 増減
資産	71,799	83,947	76,214	(9.2%)
現金及び預金	8,868	10,833	3,201	(70.4%)
建物及び構築物（純額）	35,009	43,979	43,157	(1.9%)
負債	38,586	47,814	38,827	(18.8%)
借入金	24,380	31,740	22,455	(29.3%)
純資産	33,212	36,132	37,386	+3.5%
自己資本比率	*46.3%*	*43.0%*	*49.0%*	*+5.9pt*

©Amvis Holdings, Inc.

5. 会社概要

沿革

2013年9月	訪問看護事業、訪問介護事業及びこれらに付随する業務を事業目的とした 株式会社アンビスを三重県桑名市に設立
2014年5月	かつて医院にあった病床を「医心館名張」へ転換、三重県名張市に開設 構想としての医心館のモデル事業を開始
2014年8月	「医心館あま」を愛知県あま市に開設 新設の有料老人ホームを賃借し、医心館として開設した第一号モデル
2016年10月	株式移転により株式会社アンビスホールディングスを東京都中央区八重洲に設立 株式会社アンビスを100%子会社とする持株会社体制へ移行
	東海地方を中心に、医心館の順調な運営
2019年10月	株式会社アンビスホールディングスが東証JASDAQ（スタンダード）市場に上場
	首都圏と東日本を中心に、医心館の順調な開設
2020年3月	医療機関及び介護施設の経営に関するコンサルティング等を目的とした 連結子会社「株式会社明日の医療」を設立
	在宅医療・看護のリーディングカンパニーへ
2023年3月	株式会社アンビスホールディングスが東証プライム市場へ上場市場区分を変更
2026年10月	病院やホスピス等の医療現場におけるDX/AIシステムの開発から経営・運営改善まで 一体で手掛ける連結子会社「株式会社AIZIA（アイジア）」を設立
	AIを活用した医療DX領域へ進出

世界で最もエキサイティングな
医療・ヘルスケアカンパニーへ

©Amvis Holdings, Inc.

経営・事業ミッション

経営ミッション

志とビジョンある医療・ヘルスケアで社会を元気に幸せに

事業ミッション

地域医療の強化・再生

- 医心館の運営を通じて、終末期の看護・介護ケアを提供
- 病院の経営を総合的に支援し、地域医療の活性化を推進

©Amvis Holdings, Inc.

当社の事業概要

- 従来は医心館事業の単一セグメントであったが、当期より総合医療支援事業を別セグメントとして切り出し
- これまでどおり社会基盤としての医心館事業で着実な成長を実現するとともに、総合医療支援事業を新たな成長ドライバーと位置付ける

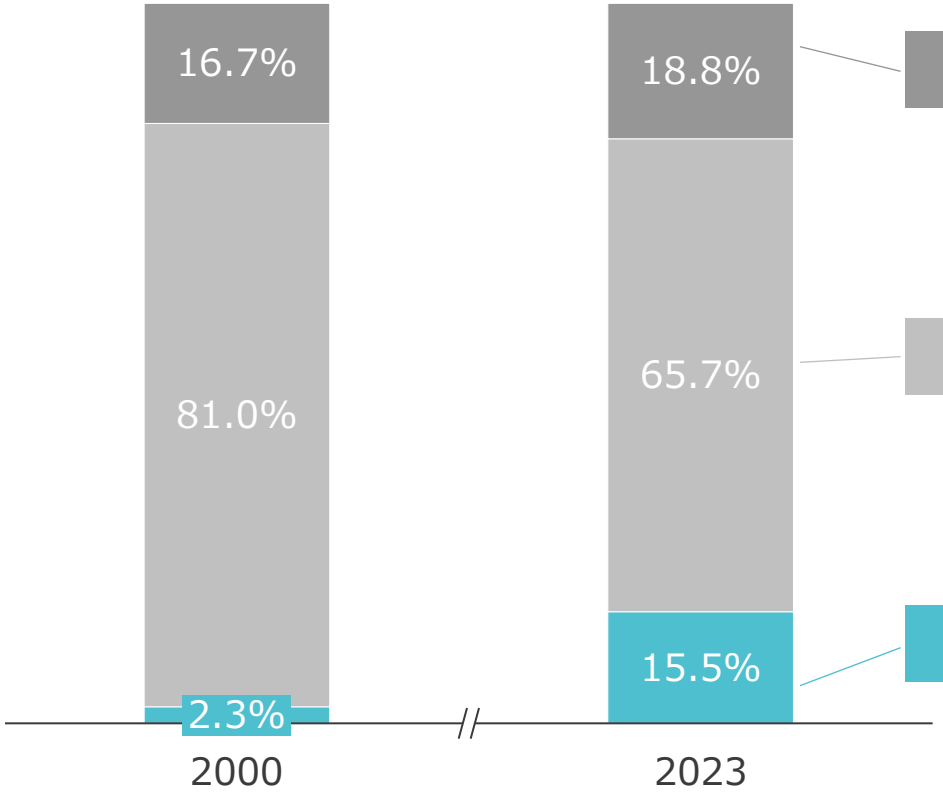
		事業内容	市場規模	収益性	診療報酬への依存度
基盤領域	医心館事業	がん末期等の重症度が高い方を対象としたホスピス運営	中規模 日本のがん死40万人が主な対象	低ROIC 資本集約型	高
成長領域	総合医療支援事業	医療機関等の経営支援	大規模 日本の病院150万床が対象	高ROIC ノウハウ集約型	低

©Amvis Holdings, Inc.

医心館事業の環境

- 少子高齢多死社会が到来し、病院完結型から地域完結型医療へと政策転換が進むなか、病院死数は2005年頃をピークに低下し施設死シフトが進行

死亡場所（構成比）の変化



背景

自宅死

在宅医療が拡大する一方、老々介護、独居化等の社会変化があり、自宅死の割合は横ばいで推移

病院死

国の方針で、日本の病床数削減が継続。病院死の割合は徐々に減少

施設死

民間資本の活用により、受け入れ施設の増加余地あり。施設死の割合は上昇傾向が続く

今後も病院での看取りが減り、ホスピス住宅等の施設での看取りが増加する傾向

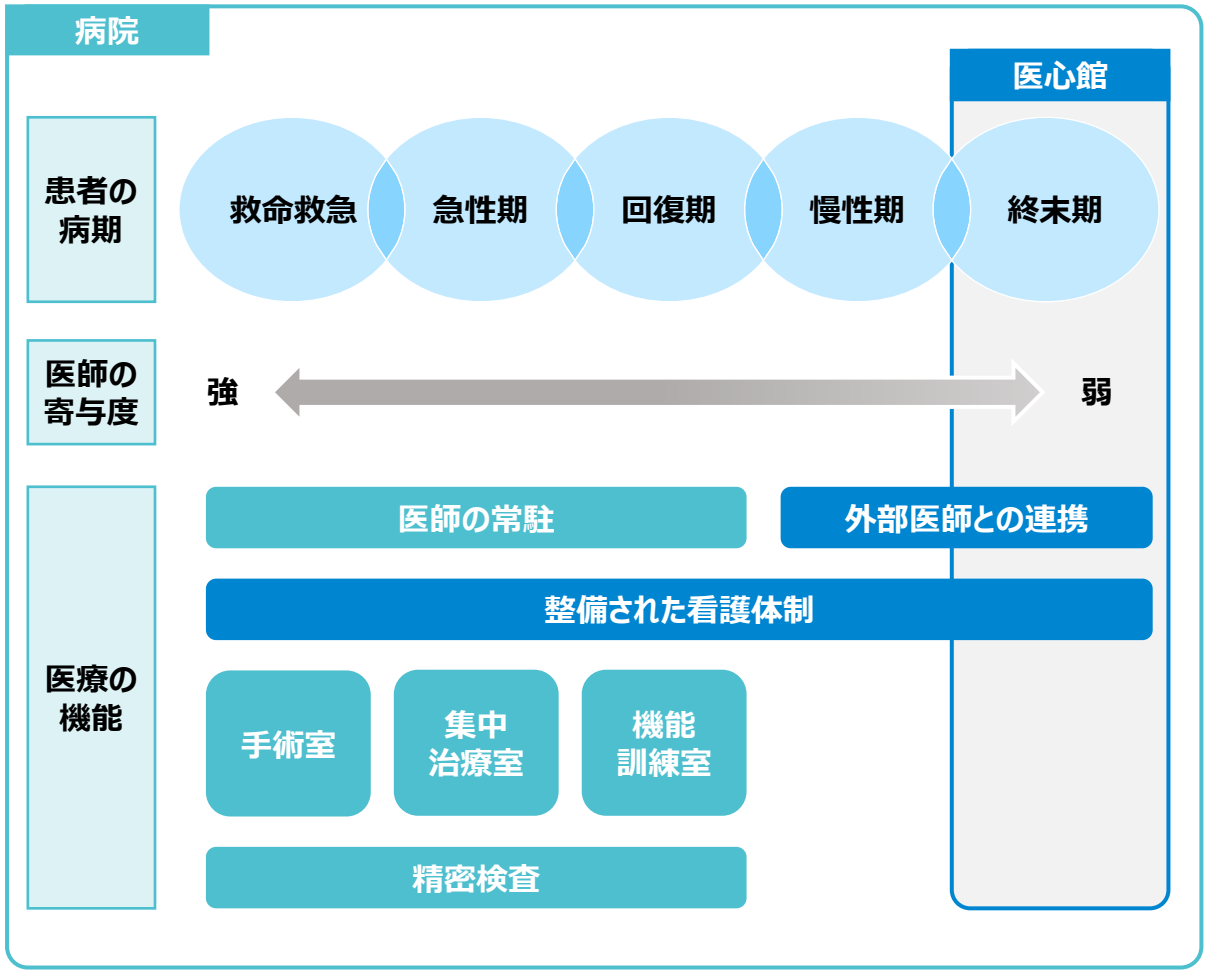
出所：厚生労働省「人口動態統計、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果（日本における外国人を含む）」

©Amvis Holdings, Inc.

医心館事業のコンセプト・特徴 / 収益構造

- 医師の機能を外部の主治医にアウトソーシングすることで、高度な看護ケアに注力した在宅医療のプラットフォームとして機能
- 既存の制度（有料老人ホーム事業、訪問看護・介護事業、居宅介護支援事業）に基づいた事業

コンセプト



主な特徴

人員体制	• 入居者とほぼ同数の看護師・介護士を配置し、手厚い看護・介護体制を構築 • 医師等はアウトソーシング
主な入居対象者	• 終末期の患者 ➢ がん終末期の方、人工呼吸器装着の方 ➢ 気管切開や特定疾患難病の方、等
医療関係者との信頼・協力関係	• 医療依存度の高い患者の受入先となり、複数の医療機関からの信頼を獲得 • 主治医とは、資本関係なしに協力関係を構築（医療やケアの透明性の担保）

収益構造（三階建構造）

医療保険売上高	• 医療保険による訪問看護サービス • 自己負担割合は原則1割~3割
介護保険売上高	• 要介護度・地域区分により単位数が異なる • 自己負担割合は原則1割~3割 • 末期がんの方が多いため介護保険売上は相対的に少なくなる
家賃・管理費実費売上高	• 入居一時金なし • 全額、自己負担 • 食費、医療用消耗品等含む

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業の環境

- 安定的な医療ニーズがあるものの、物価高等の影響を受けて多くの病院が支援を必要とする状況。一方で病院再生に向けた打ち手は再現性の高いものが多い

医療ニーズ

- 人口動態を考えると今後も医療ニーズは安定して推移する見込み
- 医療体制の維持は行政の義務
- 新たな病院の開設は困難

支援対象

- 2024年度において、一般病院の72.7%が赤字
- 2025年の医療機関の倒産件数は66件

主な支援内容

- 病床の転換および稼働率改善
- 人員配置等の最適化
- 物品購入費、業務委託費等の是正
- ホスピス・在宅医療・回復期、急性期参入

安定した医療ニーズ、多くの支援対象、再現性の高い打ち手がそろった事業構造

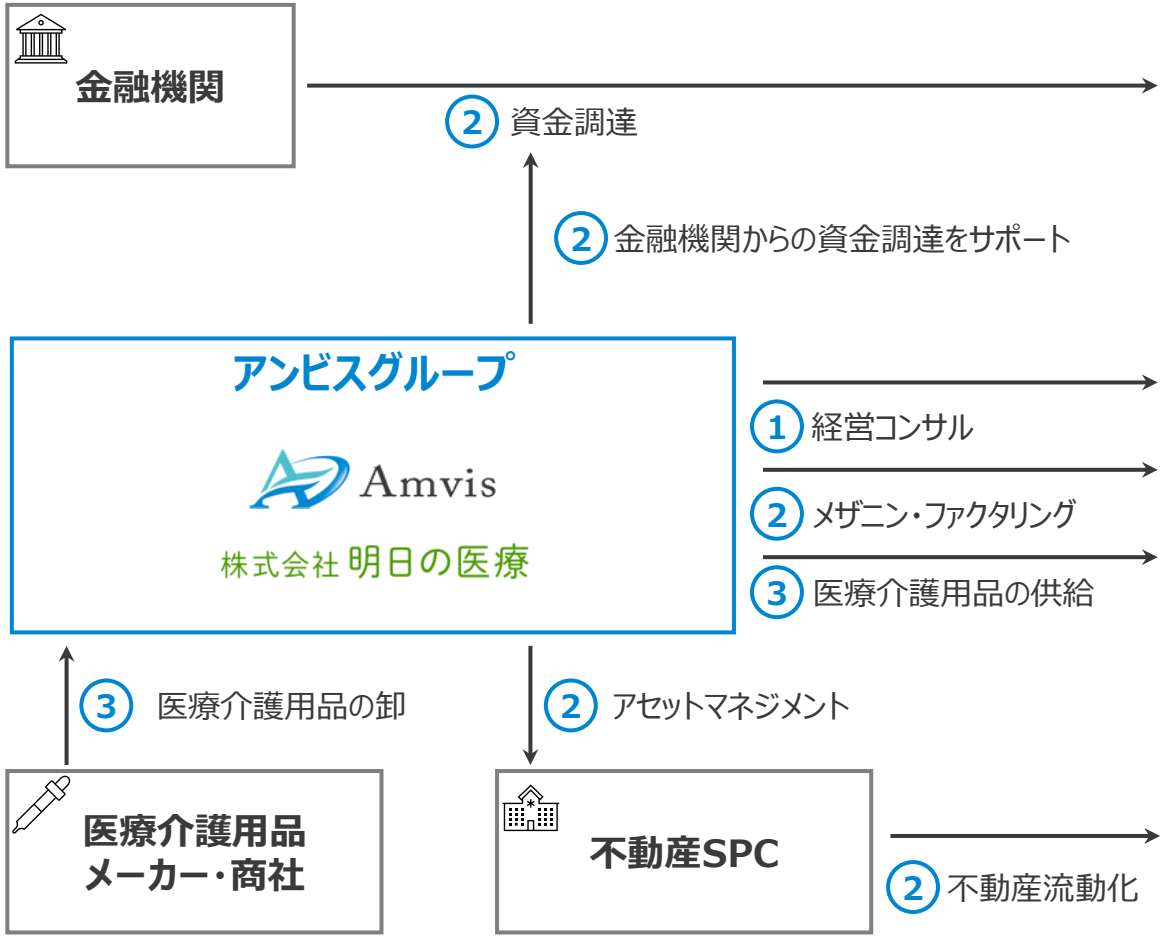
出所：厚生労働省「第25回医療経済実態調査の分析」／帝国データバンク「医療機関の倒産・休廃業解散動向調査（2025年）」

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業の概要

- 地域・病床数・病床機能を限定せず、医療機関向けの総合的な経営・運営支援体制を拡充
- 経営改善のコンサルティングだけでなく、金融支援、医療介護用品の供給等多様なニーズに対応できる体制を確立

総合医療支援事業の概要



支援内容

① 経営コンサル

- ✓ 医師・看護師の派遣による超ハンズオン支援
- ✓ 医療機関に不足する管理機能の提供
- ✓ 医心館ノウハウを活用した病床転換

② 金融支援

- ✓ ファクタリングや不動産の流動化による手元資金の拡充
- ✓ メザニン拠出等をレバレッジした金融機関からのシニアローン調達支援

③ 商社機能

- ✓ 商社機能を有する当社グループが、競争力のある価格で安定的に医療介護用品を供給

©Amvis Holdings, Inc.

総合医療支援事業における当社の強み

- 医心館事業で培ったノウハウ・リソースを中心に、他社にない強みを活かすことで、支援の確実性がより高まる構造

	支援内容	当社の強み
① 経営コンサル	✓ 医師・看護師の派遣による超ハンズオン支援 ✓ 医療機関に不足する管理機能の提供 ✓ 医心館ノウハウを活用した病床転換	✓ 当社所属医師が支援活動をリード ✓ 医心館運営で蓄積した施設運営力 ✓ 医心館との連携による病床稼働の最適化
② 金融支援	✓ ファクタリングや不動産の流動化による手元資金の拡充 ✓ メザニン拠出等をレバレッジした金融機関からのシニアローン調達支援	✓ 金融機関出身者で構成される支援チーム ✓ 医心館事業のキャッシュ創出による資金力
③ 商社機能	✓ 商社機能を有する当社グループが、競争力のある価格で安定的に医療介護用品を供給	✓ 医心館の規模を活かした購買力 ✓ メーカーとの直接のリレーション

©Amvis Holdings, Inc.

サステナビリティ経営 – 外部評価

- 当社のESGの取り組み及び開示は、MSCIやFTSE Russellといった外部機関から一定の評価を獲得

MSCI ESGレーティング

- MSCI ESGレーティングは、企業のESGリスクとリスク管理能力を総合的に評価するESG投資の世界的指標
- 23年6月のA評価から1段階格上げされ、AA評価を獲得



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

- 環境・社会・ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスである、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定



注：
1. 株式会社アンビスホールディングスによる、MSCI ESG リサーチ LLCまたはその関連会社（以下「MSCI」）のデータの使用、およびMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIによる株式会社アンビスホールディングスの後援、承認、推薦、または宣伝を意味するものではありません。MSCIのサービスおよびデータは、MSCIまたはその情報提供者の所有物であり、「現状のまま」提供され、保証はありません。MSCIの名称およびロゴは、MSCIの商標またはサービスマークです。
2. FTSE Russell（FTSE International LimitedとFrank Russell Companyの登録商標）はここに株式会社アンビスホールディングスが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

©Amvis Holdings, Inc.

ディスクレイマー

本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、当該記述のために、一定の前提を使用しています。当該記述または前提は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ございますが、詳細は、当社の決算短信、有価証券報告書をご参照下さい。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

【お問い合わせ先】
株式会社アンビスホールディングス IR担当
Email：ir_contact@amvis.co.jp